国際関係理論と日本外交史

[国際関係理論と日本外交史_下载链接1_]

著者:大矢根 聡

出版者:勁草書房

出版时间:2020-2-14

装帧:精装

isbn:9784326302857

理論家と歴史家の画期的なコラボレーション!

外交史研究と国際関係理論研究の対話を通じて、新たな日本外交像を切り拓く。

国際関係論は本当に進歩しているのだろうか。外交史研究では膨大な史料が公開されてきたが、それに溺れて分析の視点が不明確になりやすい。理論研究では方法論が洗練されてきたが、理論的革新が見られなくなった。そこで本書では、日本外交を舞台に歴史研究と理論研究の対話を試み、新たなフロンティアの開拓を試みる。

作者介绍:

大矢根 聡(おおやね さとし)

神戸大学大学院法学研究科博士後期課程単位取得退学、博士(政治学)を取得。
金沢大学法学部助教授などを経て、現在:同志社大学法学部教授、専門は国際関係論。主著:『日本の国際関係論――理論の輸入と独創の間』(編著、勁草書房、2017年)、『国際レジームと日米の外交構想――WTO・APEC・FTAの転換局面』(有斐閣、2012年)など。

目录: 第1部 序論(国際関係理論と日本外交史―「分断」を乗り越えられるか
理論・歴史対話の諸相―日本、アメリカ、ドイツ、フランス)
第2部 理論の歴史的再検討(現状防衛の時空間―安全保障外交の歴史と理論
日本のビルマ賠償をめぐる相互性―国際政治理論と戦後日本の経済協力外交の原点
国連総会一般演説を通じた日本の情報発信の変遷と傾向の検討―テキスト分析によるアプローチ
日本の対外政策決定のモデル化に向けて―「日常/非常時型モデル」の再検討
サミットにおける日本外交―異質な国の多国間協調)
第3部
歴史の理論的分析(ジョージ・ケナンの現実主義と日米関係論―政策と理論の交差
日米繊維紛争における政治過程の再検討―時間とアイディアを中心に
規範としての「一つの中国」
国際関係論の中の「普通でない国」?―戦後日独対外政策の比較研究を比較する
「アジア太平洋」/「東アジア」と日本外交―民主党政権期を中心に
時代区分論の再検討と戦後日本の自由貿易政策試論)
・・・・・・・(收起)

国際関係理論と日本外交史_下载链接1_

标签

日本史

日本

外交史

国际关系

国关理论

政治史

国际政治

评论

国際関係理論と日本外交史_下载链接1_

书评

国際関係理論と日本外交史_下载链接1_